

時代を読み解く

シリーズ 29

米陸軍募集に見る
危機とその対応

2022年度は米陸軍の募集にとって、採用目標6万人が採用数約4・5万人

（達成率約75％）にとどまる危機の年となった。目標6・5万人に対し採用数約5・5万人で約77％の達成率だった。

機は翌23年度も続き、目標6・5万人に対し採用数約5・5万人で約77％の達成率だった。

このため米陸軍は新たな施策に着手した。入隊基準を縮小している。

Z世代に響くか
これら新施策はまだその懸念を持つ若者にとり、「全

募集危機にどう向き合うか

米・英陸軍の試み

今月の講師

池上 隆蔵 1 陸佐

防衛研究所政策研究部
軍事戦略研究室 主任研究官



1970（昭和45）年生まれ、大阪府出身。同志社大学文学部哲学科卒。陸自航空科。防衛大学校総合安全保障研究科前期課程（組織科学）で修士（安全保障）。西部方面航空隊、中部方面航空隊、陸幕防衛部、第6飛行隊長（神町）、統幕防衛計画部、陸自幹部学校戦略教官、東部方面総監部陸上連絡官（横須賀）などを経て現職。専門は戦略理論、組織論、軍事社会学。論文に「海洋防衛の二つのパラダイム『制海』と『持続的な海洋支配の試み』のあいだで―」（『戦略研究』第26号、2020年3月所収）など。

募集危機の原因の一つは未達者が対象の入隊前準備募集対象者の量に関するものだ。米陸軍参謀総長によれば、17・24歳の米国人の多くは肥満、薬物歴、学力の基準に抵触し、入隊資格を満たすのはたった23％だ。有資格者も入隊意欲を示すのは僅か9％という。親が軍歴を持つ若者は有力な入隊者候補だが、そのよ

うな若者は現在13％しかない（1995年は約40％）。米陸軍は入隊者の50％を高卒者に頼るが、現在若者の70％は大学に進学する。従来米陸軍が依存してきた入隊者プールは急速に縮小している。

このため米陸軍は新たな施策に着手した。入隊基準を縮小している。

隊者の57％が心理的問題を発生しているという調査結果もあり、理由のない懸念ではない。セクハラや性暴力を恐れる者が33％も存在する。20年に陸軍内のセクハラが原因で殺害されたヴァネッサ・ギレン事件は映画にもなった。このような懸念を持つ若者にとり、「全



「You Belong Here」キャンペーン画像（英国防省H P）（cCrown Copyright）

は、若者の88％が「自らの価値観を反映できる場所」に所属したい」と考えているとの調査結果を踏まえている。英陸軍は若者4つの価値観（他者への敬意、人生を楽しむ、やりたいことで一生懸命働く、助け合う）を共有し、若者

の居場所を陸軍にある、という点が強調されている。キャンペーン広告がチームを焦点に描かれている点は米陸軍と対照的で、異なる角度からZ世代にアプローチしている。英国防省の報告によると、23年12月までの1年間と昨年の同期間を比較し、入隊者数は2・8％増加したという。ただし、Z世代は、職場の雰囲気や仲間との一体感を重視する傾向が高いともいわれるため、英陸軍型も有効な可能性はある。いずれにしても、米英両軍の募集危機への対応は自衛隊にとって示唆に富み、引き続き注視する必要があるだろう。

対照的な英陸軍
キャンペーン
英陸軍も深刻な募集危機にある。ここ10年の兵士採用は常に目標未達成だ。1921年度はキャンペーンの効果もあり達成率95％、88％と健闘したが、22年度は再び68％に落ち込んだ。このため英陸軍は23年「あなたはこの（ユー・ビロング・ヒア）」キャンペーンを開始する。これは、若者の88％が「自らの価値観を反映できる場所」に所属したい」と考えているとの調査結果を踏まえている。英陸軍は若者4つの価値観（他者への敬意、人生を楽しむ、やりたいことで一生懸命働く、助け合う）を共有し、若者

テーマをさらに深掘り
「防研セミナーブリーフィング」
執筆者の池上1佐が今回のテーマをさらに深掘りして解説し、防衛省職員と突っ込んだ議論を行う「防研セミナーブリーフィング」が6月24日（月）午後3時～4時まで、市ヶ谷のF1棟6階「国際会議場」で開かれます。参加者・聴講者は隊員に限定します。ご興味ある方は奮ってご参加ください。▽問い合わせ＝防研企画調整課03—3268—3111（内線29177）まで。